



高井戸東小学校

9月号
No. 641

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/takaidohigashisyou/> TEL 03-3304-5711

平時でないときのための平時

校長 馬場 章弘



今年の夏は福島県星の村天文台に、いつもの理科仲間と行ってきました。日程は8月10日まで。しかし、天候が不安定で星を見ることができず、阿武隈洞やアクアマリン福島（環境水族館）などをめぐるとどまりました（仲間たちは、雲の隙間から星が見えたと言っていました、私は早々と

寝てしまい、あとから聞いた話です）。月が新月に近くて星の観察がしやすい時期、しかもペルセウス流星群の極大日に近いので期待したのですが、残念でした。

毎年学校だよりの8・9月巻頭言は、私が夏季休業中に学んだことを書いてきました。今年はその日程の前後で、7月28日の「令和8年熊本地震」、8月13日の「令和8年8月千葉豪雨」と災害が相次ぎました。ご家族や親せきが被災された方もいることでしょう。ご心痛のことと思います。亡くなられた方々、そして被災された方々に心からお悔やみとお見舞い申し上げます。

先日とあるNPO団体の研修会に参加してきました。学校において様々なことを子供主体で決めていくには、どのようにしたらよいかという研修・情報共有会でした。その研修会の冒頭、代表理事の方のあいさつの中で熊本地震に関連した話を耳にしたのでご紹介します。

その方は研修会の前日までボランティアとして熊

本にいらしたのだそうです。いち早く被災地に駆けつけ、被災した子供たちが安心して過ごせる場所をつくらうと自治体に提案したのだそうです。ところが、自治体は倒壊家屋処理や被災した方々への対応、罹災証明発行などの手続きのため、子供たちの居場所づくりにまで手が回らないのが現状だったそうです。

ところが、「避難所でうつうつと過ごしている子供たちにとって、安心して過ごせる居場所づくりは必要」ということで、地域の集まりや学校のPTAが声をかけ合って、場所を確保したり人手を確保したりしはじめたのだそうです。NPOもその活動を支えるために人を派遣し協力しているのだそうです。その理事の方は、「平時でないときのための平時の人間関係」の大切さを感じたと話されていました。研修会の目的とは違うので、現地の様子がほんの数分しかうかがえず、研修会が始まるとすぐに会場を出られたようなので、それ以上は詳しくお話をうかがうことはできませんでした。

もちろん、町会やPTAの活動をしなければならないという話ではありません。地域によって実情は異なりますし、共働き家庭がたくさんある本校学区は、熊本とはまた違った人間関係なのは当然です。でも、災害があったときだけ地域と結びつきをもとうとしてもなかなかうまくいかないのは、想像に難しくありません。地域やPTAの活動に積極的に参加できなくても、顔見知りになることはできます。あいさつはできます。二学期改めて、子供たちにもあいさつの大切さを語っていきたいと考えています。

5組を紹介します！

5組担任

5組は自分のペースで自分に合った学習の仕方学ぶ児童のクラス（特別支援学級）です。1～5年生13名の児童が過ごしています。杉並区には、小学校40校中の11校に、中学校23校中の6校に特別支援学級が設置されています。特別支援学級の学区は広いので、少し遠くから通学している児童もいます。特別支援学級は、8人で1クラスという編成です。5組は、担任が3人と介助員2名、講師の先生4名で運営し、児童の得意なこと苦手なことに寄り添いながら学習や活動を進めています。他の特別支援学級・特別支援学校（済美養護学校）との連合行事もあります。6月には3年生以上の児童が、他校の特別支援学級の児童と一緒に一泊で移動教室（山中湖周辺）に行きました。10月の高井戸東小の運動会では、それぞれの学年に入り、一緒に競技や演技をします。3学期には、連合スポーツ交流会を予定しています。また1月には、セシオン杉並で連合展覧会も開催されます。ぜひ、よろしくお願いいたします。